

ブラジルが政策金利をさらに引き上げ

2015年3月5日

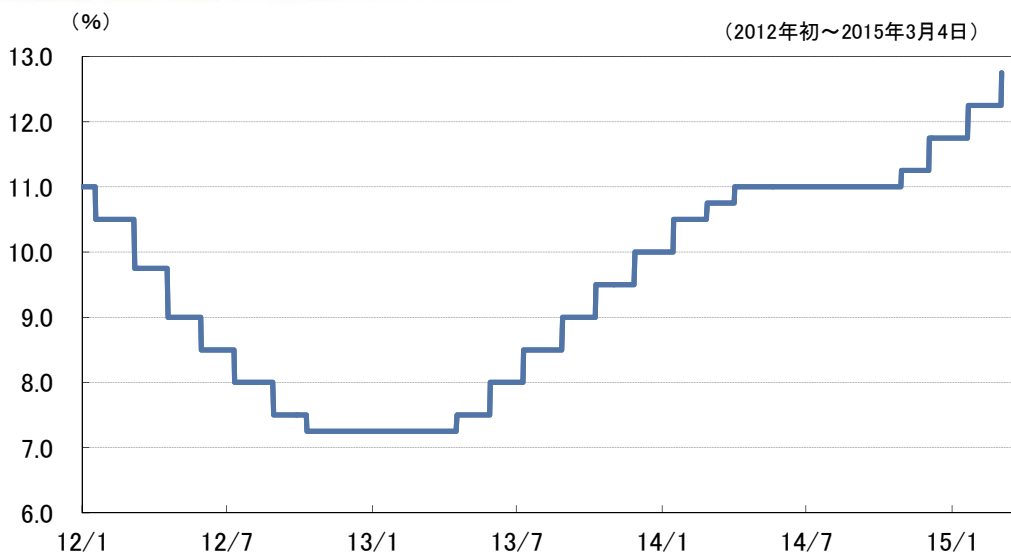
<ブラジル中央銀行:0.50%ポイントの利上げで政策金利は12.75%に>

ブラジル中央銀行は、3月3日(現地、以下同様)から4日にかけて金融政策委員会(Copom)を開催し、政策金利(Selic Target Rate)である翌日物金利の誘導目標を0.50%ポイント引き上げて12.75%としました。中央銀行は2014年10月に0.25%ポイントの利上げを実施、2014年12月と2015年1月に0.50%ポイントの利上げを実施しており、今回は昨年後半から数えて4回目の利上げとなります。中央銀行は声明文において、「マクロ経済シナリオやインフレ見通しを考慮し、当委員会は全会一致で政策金利を0.50%ポイント引き上げて12.75%とすることを決定した。」と述べています。

<利上げの背景>

1月のインフレ率は前年比で7.14%と中央銀行のインフレ目標範囲の上限である6.5%を超えて推移しています。短期的には、通貨安による輸入価格の上昇や燃料価格をはじめとした統制価格の引き上げの影響から高止まりすると見込まれます。一方で、景気の低迷が続いており、財政引き締めとのポリシーミックスから、追加的な金融引き締め余地は限界的とも言えます。今後の金融政策の動向について中央銀行からどのような言及がされるか、3月12日発表の議事録の内容が注目されます。

ブラジルの政策金利の推移



(出所)ブルームバーグ

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

<金利見通し>

今後の金融政策動向については、インフレ動向やグローバルな金融市場の状況などによって利上げ幅が縮小または利上げ終了となる可能性も考えられます。また、今後の金融政策動向をめぐる債券利回りは上下しやすい環境にあると思われませんが、短期債に関しては利上げにより利回りが上昇しやすく、長期債に関しては、米国の金融政策の正常化に対する市場の思惑やブラジル政府の財政健全化に向けた取り組みの進捗状況により神経質な推移が想定されます。

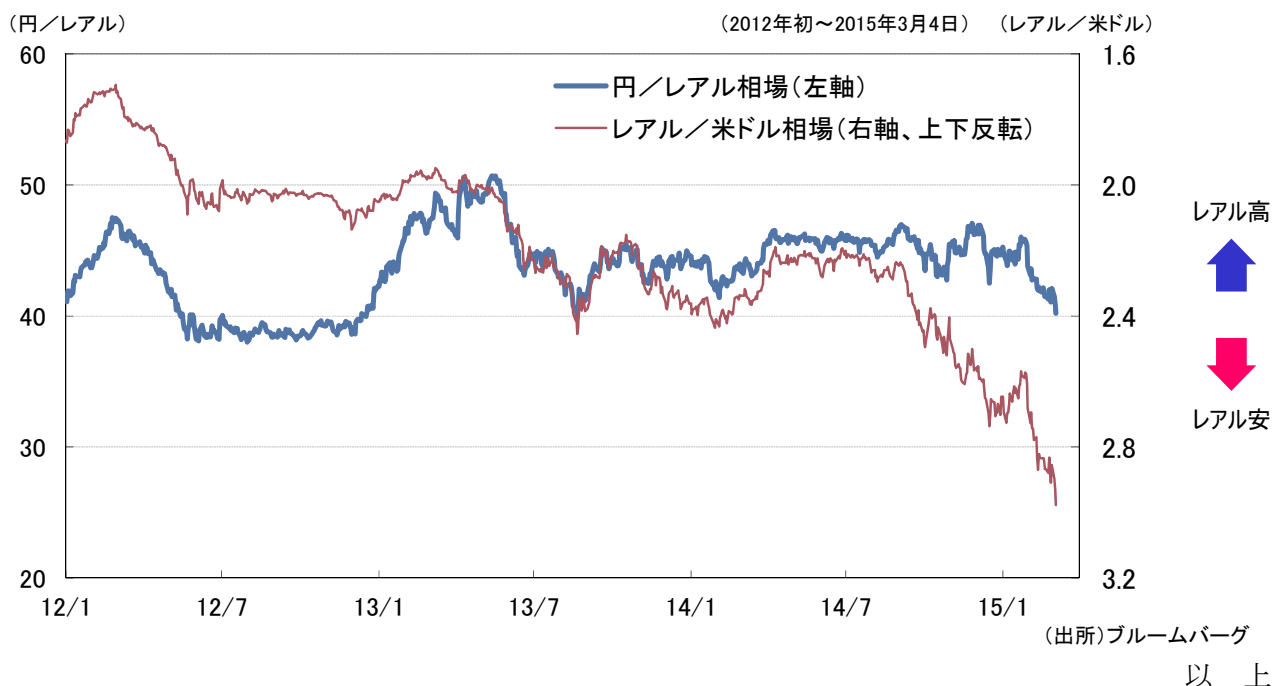
<為替見通し>

規律ある透明性の高い財政運営が期待される財務大臣のジョアキン・レビ氏は今年のプライマリー・バランス目標値を対GDP比1.2%の黒字に設定し、その実現のため様々な政策を打ち出しています。政府は財政健全化のため、1月19日に燃料税と家計向けローンの金融取引税の引き上げ、さらに2月27日に給与税の引き上げ案を発表しています。

足元のブラジル・リアルは、ブラジルの利上げサイクルが続いている一方で、米国の雇用統計が上振れたことなどから米国の利上げ開始への期待感が強まったことや、ルセフ大統領が議会に提出した緊縮財政政策の大統領令を上院議長が拒否するなど財政健全化に向けた政府の取り組みに対する期待がやや後退したことから弱含んで推移しています。

今後も引き続き、政府の政策内容、実行能力、進捗状況、また3月末が期限となっている為替介入を当局が延長するかどうかなどが注目され、リアルは変動の大きな状況が続くものと想定されます。一方で、今回の利上げによってブラジルの政策金利は2009年以来の高い水準となりました。ブラジルの金利水準は他国に比べて相対的に高い水準にあり、海外からの投資フローがリアルを下支えすることが見込まれます。

ブラジル・リアルの推移



※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。